

和歌山県の地震

第 2 7 卷 1 号
平成 3 1 年 1 月

和歌山県の地震活動

震央分布図	・・・・・・・・ 1
断面図	・・・・・・・・ 2
概況	・・・・・・・・ 2
和歌山県で震度 1 以上を観測した地震及び震度一覧	・・・・・・・・ 3
震度分布図	・・・・・・・・ 3

地震メモ No. 302

ゆっくりすべり	・・・・・・・・ 5
---------	------------

- * この資料に使われている震源要素（北緯・東経）は、世界測地系に基づいています。
- * この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- * この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図 25000（行政界・海岸線）を使用しています。

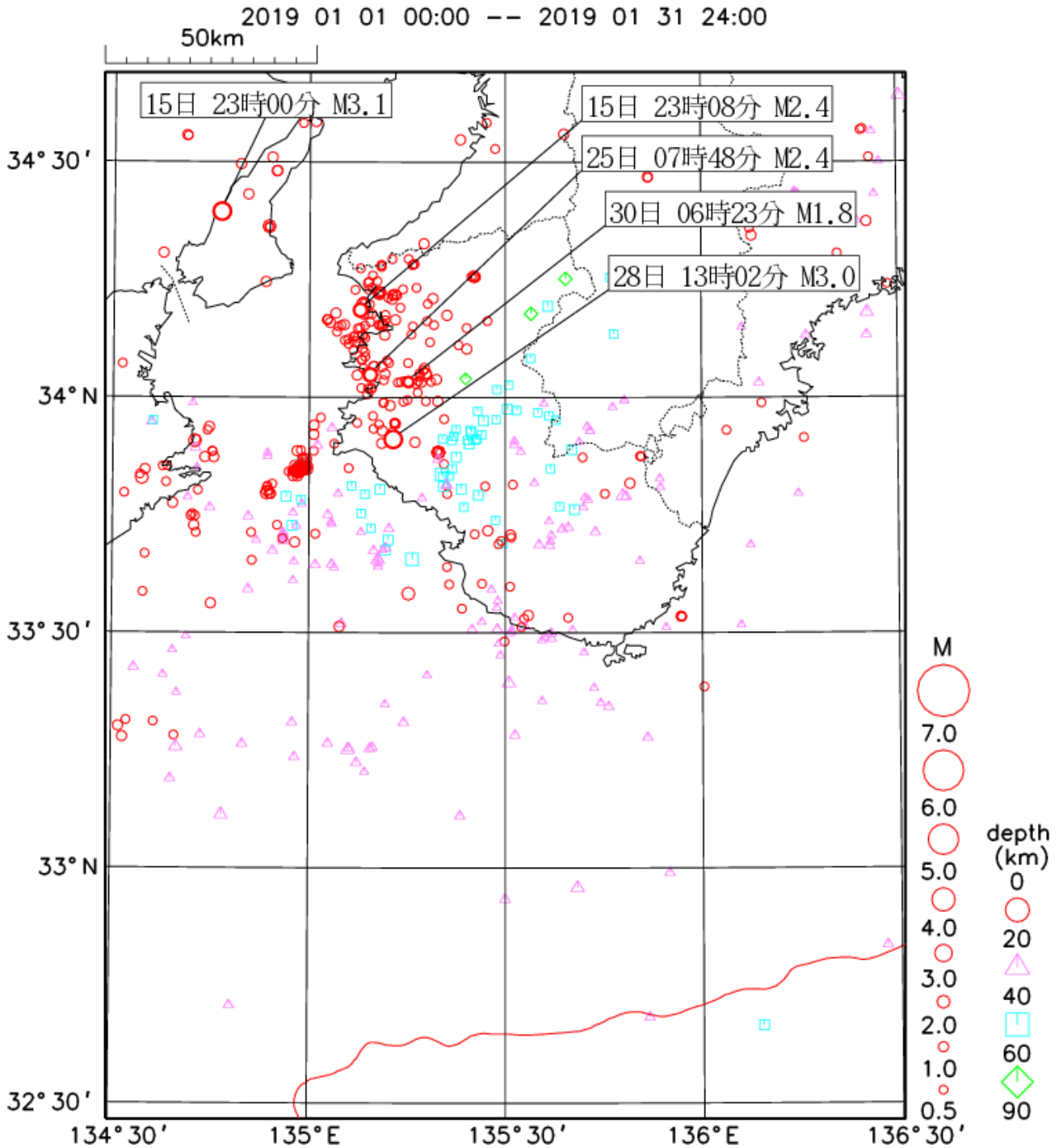
和歌山地方気象台

和歌山県の地震活動

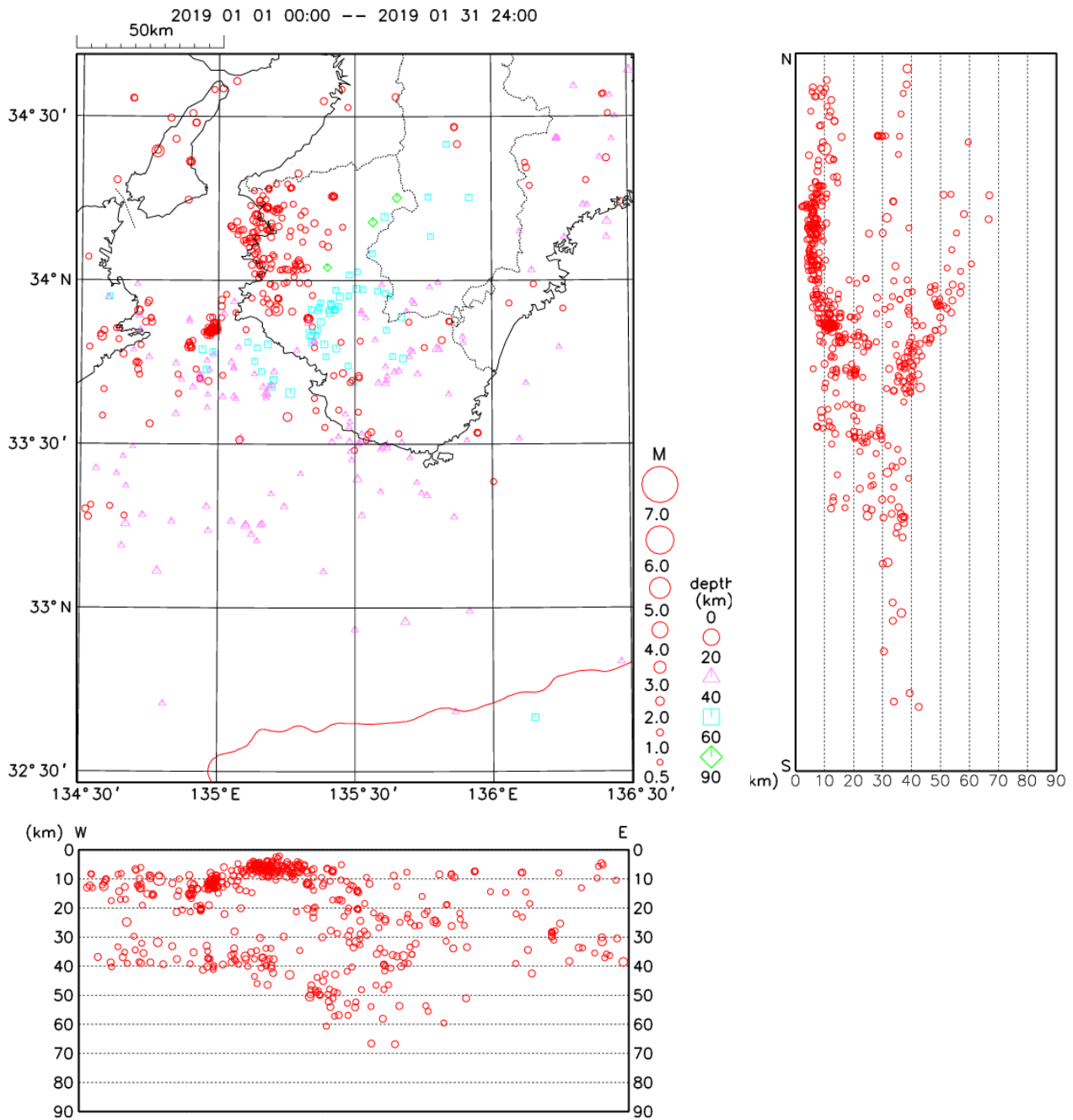
2019年1月

和歌山地方気象台

震央分布図



断面図



概況

1月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード (M) 2.0 以上の地震は 23 回 (前月は 30 回) でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、15 日 23 時 00 分 淡路島付近の地震 (M3.1、深さ 10km) でした。この地震により、県内では震度を観測した地点はありませんでした。

1月に和歌山県内で震度 1 以上を観測した地震は、4 回 (前月 10 回) でした。

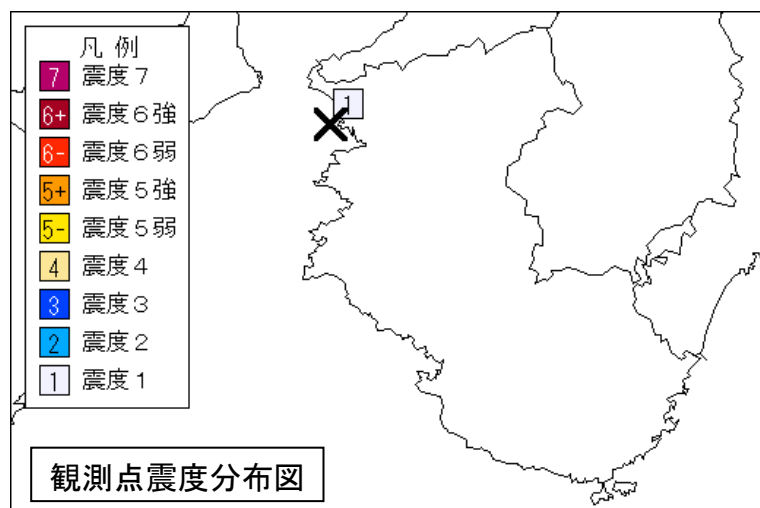
和歌山県で震度 1 以上を観測した地震及び震度一覧

発震時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度（和歌山県内のみ掲載）					
2019年01月15日23時08分	紀伊水道	34° 11.1' N	135° 07.7' E	6km	M2.4
和歌山県 震度 1：和歌山市一番丁*					
2019年01月25日07時48分	紀伊水道	34° 02.8' N	135° 09.3' E	6km	M2.4
和歌山県 震度 1：有田市初島町*, 湯浅町青木*					
2019年01月28日13時02分	和歌山県北部	33° 54.6' N	135° 12.8' E	8km	M3.0
和歌山県 震度 1：御坊市藪, 湯浅町青木*, 由良町里*, 日高川町土生*					
2019年01月30日06時23分	和歌山県北部	34° 01.9' N	135° 15.1' E	4km	M1.8
和歌山県 震度 1：湯浅町青木*					

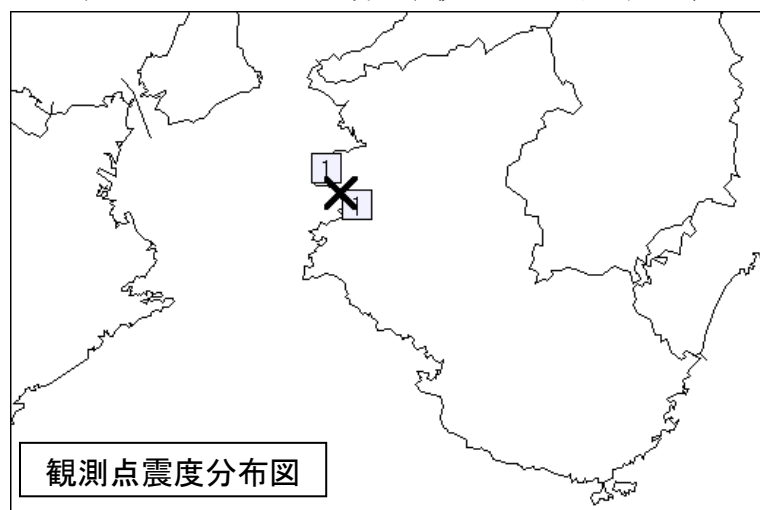
※ 地点名の最後に*のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

震度分布図（図中の×は震央）

2019年01月15日23時08分 紀伊水道の地震（M2.4、深さ6km）

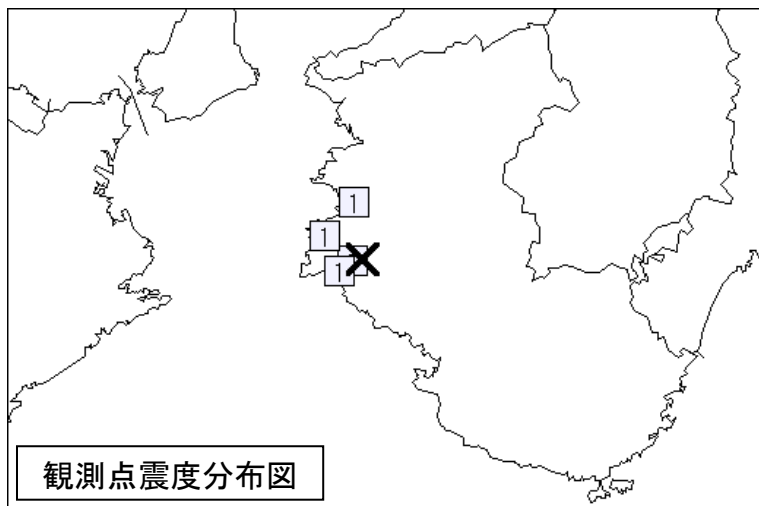


2019年01月25日07時48分 紀伊水道の地震（M2.4、深さ6km）



震度分布図（図中の×は震央）

2019年01月28日13時02分 和歌山県北部の地震（M3.0、深さ8km）



2019年01月30日06時23分 和歌山県北部の地震（M1.8、深さ4km）



----- おしらせ -----

『南海トラフ地震 地域「防災・減災」シンポジウム 2019 in 和歌山』

日時 : 平成31年3月10日(日) 13時30分~16時00分

場所 : 和歌山県民文化会館小ホール

参加費 : 無料

申し込み : 下記 URL をご覧になり、メールまたは FAX をお送りください

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/nteq_symposium.html

ゆっくりすべり

一昨年（平成 29 年）9 月に中央防災会議の「南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループ」において、南海トラフ巨大地震の想定震源域（以下「想定震源域」と言う）で、大規模地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まっていることが評価可能な異常な現象のケースのひとつとして、“ゆっくりすべり”があげられました（図 1）。

“ゆっくりすべり”は、人が揺れを感じるような地震波を放射せずゆっくりと断層が動き、ひずみエネルギーを解放する現象です。ひずみ計による観測に加え、近年、高密度な地震観測網の展開や GNSS（全球測位衛星システム）観測等から、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界の少し沈み込んだ領域では、短期的（およそ数日間）および長期的（数か月から数年）ゆっくりすべりや深部低周波地震（微動）が定常的に発生していることがわかってきました。これらの現象は、プレート境界付近では、通常地震活動とお互いに影響を及ぼしあっていると考えられています（図 2 3）。

気象庁では、東海地震予知情報の判定基準とされていたような想定震源域におけるプレート境界面でのゆっくりすべりや、これまで観測されたことがないような大きなゆっくりすべりが観測された場合には、『南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会』を開催し、『南海トラフ地震に関連する情報（臨時）』を公表します。今後、和歌山県においても、中央防災会議の「南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応検討ワーキンググループ」により示された防災対応の基本的な方向性に従って、防災対応を考える必要があります。

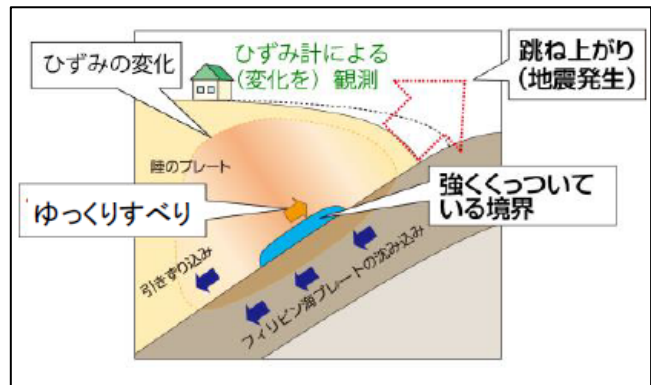


図 1 ゆっくりすべりの概念図

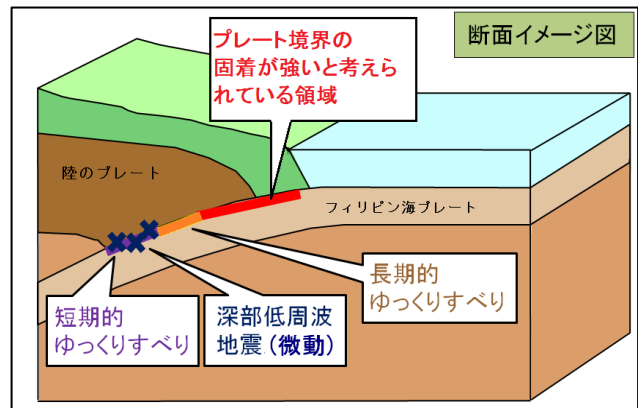


図 2 断層イメージ図※

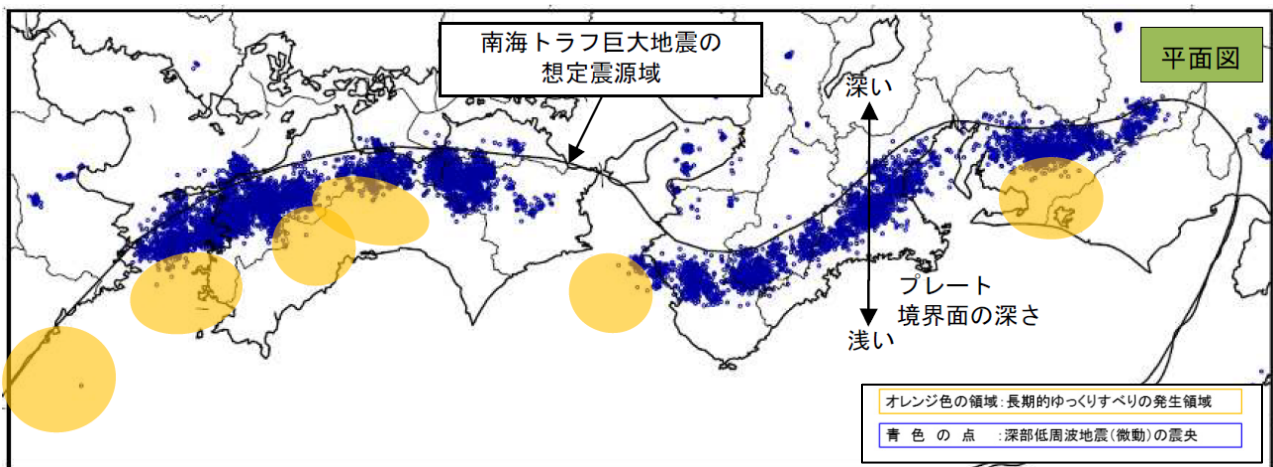


図 3 平面図※

※ 南海トラフ巨大地震の想定震源域内の深部低周波地震（微動）、長期的ゆっくりすべり、短期的ゆっくりすべりの発生領域の断層イメージおよび平面図の長周期ゆっくりすべりの発生領域は Kobayashi (2014) を参考に作成しています

Kobayashi (2014) : Kobayashi, A., 2014: A long-term slow slip event from 1996 to 1997 in the Kii Channel, Japan, Earth, Planets and Space, 66:9, DOI: 10.1186/1880-5981-66-9.